

contents

- ・患者支援センター開設紹介
- ・診療科紹介
- ・救急の日シンポジウムで講演
- ・第13回健康長寿講演会
- ・新任教授の紹介
- ・公開講演会スケジュール
- ・休診日のお知らせ



編集：杏林大学医学部附属病院
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel 0422-47-5511 (代表)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>

新設部署紹介

患者支援センター開設にあたり



杏林大学医学部附属病院
副院長
患者支援センター長
塩川 芳昭

本年7月より、杏林大学医学部附属病院では従来の地域医療連携室（地域医療連携係、医療福祉相談係）と入退院管理室を統合して患者支援センターを新たに発足させました。

その背景には、医療の高度化や超高齢化社会到来に伴い病院間、病院・診療所間の緊密な連携がますます必要となってきたにもかかわらず、今までの体制では十分に対応できなくなってきたことがあげられます。

患者支援センターでは看護師、ソーシャルワーカー、事務職員が一体となって先生方や患者さんの多様なニーズに迅速・的確にお応えできるよう、まさに走りながらの改革を進めております。

具体的には外来予約の方法や紹介患者さんへの診療体制について、まずは平日の日勤帯にシンプルな運用ルールを再構築し、運用を始めています。近日中には、年度初めにお配りした当院の診療案内を補足する形で詳細のご案内を差し上げたいと存じます。

本紙「杏林大学病院ニュース」の表題右に記されている「地域医療の充実をめざして、関係機関の皆さまとともに」を実感を伴って推進すべく、ご関係の皆様方にはよろしくご支援・ご指導のほどお願い申し上げます。

◆ 高齢診療科

診療科紹介

◆ 麻酔科

高齢診療科は入院患者の8割以上を高齢診療科もしくはATTからの緊急（即日）入院が占めています。当院が救急医療を重視していること、患者さんがおしなべて高齢化していることが、当科で緊急入院が多い理由です。疾患としては肺炎（医療・介護関連肺炎、市中肺炎）、心不全、腎盂腎炎を含む尿路感染症が多く、認知症、高血圧症、糖尿病、腎不全、消化器障害などの疾患を合併していること、嚥下機能やADLが低下していることが特徴です。したがって、複数の疾患を管理すること、疾患の治療と同時にADLや認知機能を評価しながら退院先（在宅/施設/療養病床/慢性期病院）を具体的に検討することが必要です。そのために看護師、ソーシャルワーカーなど多職種との連携を重視しています。

地域から患者さんを受け入れ、地域に退院をお願いする、杏林大学病院ニュースの見出しの横に書かれている「地域医療の充実をめざして」いるのが当科の特徴です。外来診療は“もの忘れセンター”と“高齢診療科”の二つの部門で行っております。詳細は毎年発行している診療案内をご覧ください。

麻酔科では、周術期管理、手術室麻酔管理、集中治療室管理を行い、術前から術後を一貫して管理しています。麻酔科管理症例数は年間7,000件を超えており、手術・麻酔をより安全に行うために、周術期管理外来での麻酔科による術前評価と患者さんへの麻酔説明を行っています。より厳密なリスク評価と周術期管理を行うことによる手術および麻酔の安全性向上のために寄与したいと考えています。

また麻酔科では当院がんセンターの緩和ケアチームに医師3名を出し、緩和ケア外来を開設しています。緩和ケア外来では入院中に緩和ケアチームが併診した患者さんや、各がん診療科外来に通院中の患者さんを診ています。地域連携の一環として、地域の病院・医院に通院している患者さんでも受診は可能ですが、緩和ケア外来から入院することはできません。（入院中は主科との併診の形をとっているため、別途がん診療科同士で紹介の手続きをお取りください）

◆ 東京 DMAT（災害派遣医療チーム）表彰、救急の日シンポジウムで救急科 山口教授が講演

9月10日、東京都庁第一本庁舎で「救急の日」に因んだシンポジウム、「東京都の災害医療の更なる充実に向けて～東京 DMAT 創設後10年の取り組みと今後～」が開催され、東京 DMAT 運営協議会会長で当院高度救命救急センター長の山口芳裕教授が基調講演を行いました。



また同日、「平成26年度救急医療関係功労者・東京 DMAT 関係功労者等知事感謝状贈呈式」が行われ、2004年の東京 DMAT 発足当初から活動に参加している当院に、東京都知事から感謝状が贈られました。



◆ 第13回「健康長寿講演会」を開催

9月30日、三鷹市老人クラブ連合会と合同で、健康長寿講演会「認知症にならないために」を三鷹市公会堂で開催しました。当院もの忘れセンター長の神崎恒一教授（高齢診療科）と、栄養部の中村末生管理栄養士が講演し、三鷹市老人クラブ連合会会員と一般市民合わせて約120名が参加しました。

神崎教授は、認知症の症状や予防方法について講演し、認知機能チェックシートで参加者各自がチェックを行いました。中村管理栄養士は「脳を元気にする食習慣」について話しました。



■ 新任教授紹介



脳卒中医学教室

平野 照之

熊本大学医学部卒業。熊本大学医学部附属病院第一内科研修医、国立循環器病センター内科脳血管部門レジデント、熊本大学第一内科・神経内科医員、豪州メルボルン大学 Research Fellow、熊本労災病院 内科副部長・神経内科、熊本大学医学部附属病院医員・助手・講師、大分大学医学部第三内科・神経内科准教授などを歴任。平成 26 年 9 月 杏林大学医学部脳卒中医学教室に着任。

9 月に開設された脳卒中医学教室を担当します。2012 年 10 月には SCU を併設した新病棟の運用も始まっており、脳神経系疾患全体の診療・教育・研究のレベルアップが期待されています。2006 年 5 月には脳卒中センターが稼働し、診療科の垣根を超えたチーム医療体制やその診療成績は、すでに内外から高い評価を受けています。

高度先進医療の提供、脳卒中専門医の育成、国内外への情報発信というビジョンを持って、脳卒中医療の質を向上させていきたいと考えています。



眼科学教室

井上 真

慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学医学部眼科研修医、国家公務員共済組合連合会立川病院、日野市立病院、杏林大学医学部眼科 網膜硝子体 Fellow、米国デューク大学アイセンター Research fellow、慶應義塾大学医学部眼科学助手・専任講師などを歴任、平成 19 年 杏林大学医学部眼科学教室に着任。

杏林アイセンターは細分化された眼科診療を包括的に行うために設立され、本年度で 15 年目を迎えます。各専門分野のエキスパートが診療を行うバランスの取れた眼科診療ができることを自負しています。

網膜硝子体疾患の診療は全国でも有数の手術件数と診療レベルを誇っています。私の専門も網膜硝子体疾患ですが、特に小切開硝子体手術の発展を支援してきました。今後もエビデンスに基づいた診療を教職員共々率先して行い、また臨床研究も今まで以上に発展させていく所存です。



総合医療学教室

岡本 晋

慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学医学部放射線科・内科研修医、静岡赤十字病院内科、水戸赤十字病院内科、慶應義塾大学消化器内科助手・専任講師、三菱東京 UFJ 銀行健康センター所長・慶應義塾大学医学部非常勤講師（消化器内科）などを歴任。平成 26 年 6 月 杏林大学医学部総合医療学教室に着任。

健康医学センターで人間ドックを担当します。健康診断の目的は「病気の早期発見」と「病気のリスク発見とその発症予防」です。近年の検査、特に画像検査の進歩には目を見張るものがあり、例えば動脈硬化に関連した新たな検査も続々登場しています。

私の培った放射線科・消化器内科・さまざまな規模の健康診断業務の経験を十分に活かし、受診者の多彩なニーズに対応できるドックシステムを構築し、大学病院全体の機能の充実に貢献したいと思っています。



泌尿器科学教室

桶川 隆嗣

杏林大学医学部卒業。平成 3 年杏林大学医学部泌尿器科研修医、杏林大学大学院医学研究科修了、米国テキサス大学(サウスウェスタンメディカルセンター)留学。留学後、杏林大学医学部泌尿器科講師・准教授を歴任。

主に泌尿器科腫瘍の基礎臨床研究・低侵襲手術に従事してきました。今後益々拡大する泌尿器科の需要に応えるために、エビデンスに基づいた医療、質の高い診療の実践、高度な先進医療の推進と同時に、地域の中核病院として一般的な診療内容の拡充に取り組む所存です。

また研究として、泌尿器癌における末梢循環癌細胞の遺伝子解析開発、下部尿路機能障害に対する再生医療などを発展させると共に、臨床への架け橋となるトランスレーショナルリサーチを推進し、最終的にはその成果を実地臨床に還元したいと思います。



産科婦人科学教室

小林 陽一

慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学医学部産婦人科入局・助手、大田原赤十字病院産婦人科副部長、聖マリアンナ医科大学産婦人科助手・講師、米国パーナム癌研究所留学、聖マリアンナ医科大学産婦人科准教授などを歴任。平成 22 年 7 月 杏林大学医学部産科婦人科学教室着任。

私の専門は婦人科腫瘍ですが、腹腔鏡を用いた低侵襲手術をさらに拡大するとともに、多種多様化していく様々なニーズに応えられるように体制を整えていきたいと思っています。

また、周産期の重要な拠点として、引き続きその発展に尽力していく所存です。

癌や不妊症で治療を受けた患者さんは治療後も色々な問題が生じてくるため、1 つの病気の治療だけでなく、余病も含めた女性のトータルヘルスケアを目指して参ります。

平成 26 年度 杏林大学公開講演会 (11 月・12 月)

日時・会場	テーマ
11/1 (土) 13:30-15:00 三鷹キャンパス	高齢者肺炎の特徴と対処法 感染症科教授 河合 伸 医療安全管理部部長 中村 貴枝子
11/8 (土) 13:30-15:00 八王子学園センター	応急処置 身の回りの危険 保健学部教授 和田 貴子
11/8 (土) 14:30-16:30 三鷹ネットワーク大学	怒鳴らない子育て 患者支援センター課長 加藤 雅江
11/12 (水) 18:00-19:30 三鷹キャンパス	新たに展開した薬疹の世界 皮膚科教授 塩原 哲夫
11/15 (土) 13:00-15:00 三鷹キャンパス	がん医療の最前線 腫瘍内科教授 古瀬 純司
11/15 (土) 13:30-15:00 八王子学園センター	これからの高齢者介護 総合政策学部准教授 岡村 裕
11/29 (土) 13:30-15:00 八王子学園都市センター	「ロコモ」を知っていますか? 整形外科教授 市村 正一
12/13 (土) 13:30-15:00 三鷹キャンパス	くずりとピロリ菌と胃潰瘍 消化器内科教授 高橋 信一

会場のご案内

- 杏林大学三鷹キャンパス：R 吉祥駅よりバス。杏林大学病院内
- 三鷹ネットワーク大学：R 三鷹南駅前ビル3階
- 八王子学園都市センター：R 八王子駅（京王八王子線徒歩5分）



■ 外来診療休診のお知らせ ■

11 月 11 日 (火) は杏林学園創立記念日のため、外来診療を休診とさせていただきます。救急の際は高度救命救急センターにて診療いたします。